

議員研修会 報告書

調査先	輝け！議会 対話による議会活性化フォーラム in 大野城市
日時	令和6年1月27日(土)13時30分～17時30分
場所	自治研修センター まなびの宿
テーマ	実践！どう創る？議員間討議
対応者	江藤 俊昭氏（大正大学教授） 神吉 信之氏（ローカル・マニフェスト推進ネットワーク九州） 前田 隆夫氏（西日本新聞論説委員） 菅 太助氏（飯塚シテイズンシップ推進会）
概要	<p>かがやけ議会!!対話による地方議会活性化フォーラム in 大野城市において、3つのテーマ別に6グループに分かれ、グループごとに議員間討議を行い、最終的にグループごとに発表して、対応者に感想・講評を受けた。</p> <p>(テーマ)</p> <p>A 大野城市公民館施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について（発議者：山上高昭（大野城市議会議員））</p> <p>B 浄水場の更新か、廃止か。持続可能な水道事業に向けた選択（発議者：奴間健司（古賀市議会議員））</p> <p>B 1グループ 森 和也 B 2グループ 関井利夫、中村真一参加</p> <p>C 合併による図書施設の統廃合について（発議者：盛 泰子（伊万里市議会議員））</p> <p>C 1グループ 井福大昌、平田不二香 Cグループ 平井信太郎、岡部かおり参加</p> <p>(神吉信之氏の趣旨説明)</p> <p>①議会改革のうねりの中で、議会報告会は一般化してきた。</p> <p>②だが、議会内での議員同士の議論が、公開の場で行われているのは稀である。</p> <p>③一言で言って会話が足りない。執行部との対話にとどまっているだけでいいのか。それで議会と言えるのか。</p> <p>(江藤俊昭氏による事前の課題提起)</p> <p>①議員の華とされる一般質問は中長期的な提言であり、それを議会からの提言として執行部に対峙する材料としていく方向に、議会改革は向かっている。</p> <p>②一般質問は独り言に過ぎないが、議案審査は違う。議案審査は一般質問より大事である。なぜなら、執行部が提案する議案について、いくら議員が質疑したところで、提案者側が不都合なことに言及するはずがない。よって、メリット・デメリットを明らかにするのは議会にしかできない。しかもその決定権は議会にある。責任もあるということだ。</p> <p>③執行部との対話も大切だが、決定権者として、専門家や当事者の意見を積極的に聴く、参考人制度を利用して取り入れていただきたい。政治的・社会的な見解を異にする議員が議会多数を取ればよいということではなく、熟議を経た合意をめざせ。少数意見</p>

の尊重という民主主義の本質は、ただの多数による可決では保証されない。

(グループ討議の進み方)

- ①発議者が、それぞれの担当グループにおいて提案理由を説明
- ②発議者に対する質疑
- ③議員同士での見解や疑問点の話し合い
- ④論点整理、メリット・デメリットの整理
- ⑤賛否の表明
- ⑥委員長役が、全参加者に向けて報告
- ⑦市民役、発議者、コーディネーター、参考人役からの感想・講評

(市民役の参加者からの意見)

- ①議員の議論には、市民のための議論が少なく、これでは市民に伝わらないであろう。
- ②付帯決議という委員会があったが、議会がその後をフォローするのは大切である。

(前田隆夫氏の講評)

- ①一議案の審議が、関連事業全体の議論に広がっていくのは、議会ならではの仕事だと思う。
- ②本日の経験を議会に持ち帰っていただきたい。
- ③委員会の委員長には、議論の整理能力が必要だと感じた。
- ④議論しやすい委員会室のレイアウトも大事(議員間の距離がありすぎるのでは?)

## 所 感

私のグループの議題は「建設から50年近く経過し、老朽化した浄水場の規模を縮小して更新か、それとも廃止か。」というテーマで、事前に配布された資料と発議者の提案理由の説明で討議を進めた。

論点を ①費用(事業費と水道料金) ②災害への対応の大きく2点として、論点整理のため、古賀市の人口動態、水道普及率、浄水場更新・廃止の収支計画、水道料金の見込み、今後の水道管の維持・更新費用、北九州からの受水の補償など、様々な視点から議論が展開された。

議論が進む中で、リスク分散の視点から水道事業の広域連携の必要性まで意見が出され、積極的な討議となった。

議員間討議は、問題点を浮き彫りにして様々な視点から論点を整理して議員間の認識を深めることが目的であり、単に執行部の説明・質疑で終わるのではなく、しっかり討議を重ねた上で討論、採決に進むことが肝要であると認識できた。

ここで、自衛隊で学んだ状況判断の思考過程について、議員間討議に応用できることを確認した。状況判断は、複数の行動方針があった場合、ここでは浄水場を更新する

(O-1)、廃止する(O-2)のそれぞれの利点・不利点・対策を分析して比較の要因を導き出し、比較の結果を総合的に判断して最良の行動方針を選定するものである。

最良の行動方針を選定するためには、正しい情報が必要であるが、今回の討議の中で

北九州市の給水能力が落ちることはない、北九州市との広域連携による複数の水源確保が可能であるという情報が、私の考えが固まる元となった。

今回の研修を通して、議員間討議の重要性をあらためて認識することができたので、今後ともあらゆる機会を見つけて学んでいきたい。

一文責 森 和也